

病院歯科衛生士として

診療支援部歯科衛生部門 佐々木 綾 子

はじめに

みなさんはじめまして。診療支援部 歯科衛生部門の佐々木綾子（ささきりょうこ）といたします。平成23年4月に採用され、義歯（入れ歯）診療室に配属となり移転後の現在もブロック3の義歯診療科の患者様のメンテナンス業務をしています。

旧外来の義歯（入れ歯）診療室は夏の西日が強く当たり暑く、冬は隙間風が入り寒かったです。窓から見える景色で四季の移り変わりが感じられました。一戸建てからマンションへ引っ越したように今ではなかなか外の風景を感じることが出来なくなったのが残念です。

現在の歯科衛生士の人数は看護師の医科への配置換えも伴って、22人と大所帯となりました。移転してから見渡す景色もさることながら歯科衛生士の業務体制も大きく変化しました。以前はメンテナンス業務と器材整備、診療補助などの周辺業務にある程度分かれていたのですが、ほぼ全員がメンテナンス業務に関わるような体制になりました。

患者様の全身状態の把握、急変時の対応はなかなか歯科衛生士では難しいところもありますが、口腔内の健康の専門家として、口腔と全身状態の問題を把握し、他職種との連携の際のコーディネーターとしての役割ができるように頑張っています。

ワンフロアで見渡しが良くなった半面、患者様のプライバシーの保護の点からユニット周囲がパーテーションで区切られ、なかなか患者様の状態や診療の状況が把握できずにいます。診療室で配属されているのと違い、診療室の大きな壁がなくなり全員がフロアを見渡し協力して働いていく

ためにはどうしたらいいか。業務を充実させ、研究などの業績を向上していけるよう、また診療がスムーズに安全に行われるにはどうしたらいいか。皆が気持ちよく働けるよう課題があります。

学会参加して

去年より老年歯科医学会に入会し初めて学会に参加させていただきました。他の歯科衛生士の働きに刺激を受け、私も病院歯科衛生士としてまだ



患者様への案内

まだ足りないところがあり、差を感じさせられました。医療系大学には『研究』『教育』『臨床』の3本柱があります。まだ研究活動に携わったことがないので、日々の業務から学び、疑問を解決するために研究活動を行いたいと思っています。今後の診療業務に生かせるような研究に携わることで、高度な口腔の知識と技術を十分に発揮しQOLの向上に役立ちたいと思っています。また、知識を増やすだけでなく、技術に生かせるように研鑽を積みたいと思います。いろいろな機会では他の歯科衛生士や他職種と交流し何が行われているか教えてもらい考えるのが大事だと思いました。『井の中の蛙大海を知らず』もっと広い視野でまずは行動をおこし、行動しつつ考えながら歯科衛生士として社会人として活躍が広がるよう努力したいと思っています。いつやるの？ 今でしょ!! (笑)

座右の銘

随所作主 立処皆真 (随所に主となれば、立つところ皆真なり)

以前にお寺の法話で聞いた言葉です。サッカー日本代表の長谷部選手のブログにも載っています。

そのことに一所懸命になれば真実がそこに現れている。いつでもどこでも自分の置かれた場所や状況の中で精一杯こころを込めて努め励み、相手を最善に生かすこと、そして自分が生かされ光るとあります。何事も自分が主役になるということは容易なことではないです。本物の自分という土台がしっかりしていないと、外からかかったほんの少しの圧力に振り回されてしまい、自分を見

失ってしまいます。

どこにいてもどんな状況でもそこで頑張ることに意味がある。どんなに素晴らしい環境にいてもそこにいることに満足して頑張ることをしなければ何も意味がないと。

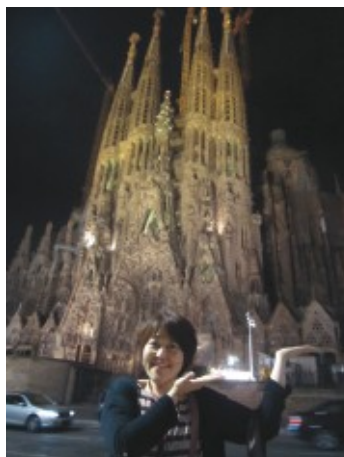
大切なのは、自分の立ち位置を自分でしっかり決めて人の評価や意見に冷静に耳を傾けること。人の評価や意見は自分の立ち位置の確認するためのもの。決して動揺せず常に感謝をして謙虚に、冷静に耳を傾ける。時々この言葉を思い出しています。

心を動かす

人にものを教えるのはすごく大変なことだと痛感しています。人は理屈では動かない、感情で動く生き物。相手に教え、説得するためには心を動かさないといけない。相手に教えることで自分も成長すると思います。人に教えることは教える側にとって一番の勉強になると思い自分自身も成長したいと思っています。また、大人数で働くには互いにコミュニケーションをとり、チームワークを取っていかないといけないと思います。チームとは生きものであると思います。チームのイメージに向かってお互いを活かし活かされてまとまっていけたらと思います。

こんな私です

自己紹介します。思い立ったらすぐ行動。好きなことにはとことん突き進める性分です。回遊魚のように止まっていられないようです(笑)。なんといってもサッカー好き。ミーハーなところもありますが、日本代表戦はスタジアムまで足を運び、メッシが見たくてバルセロナまでサッカー観戦に



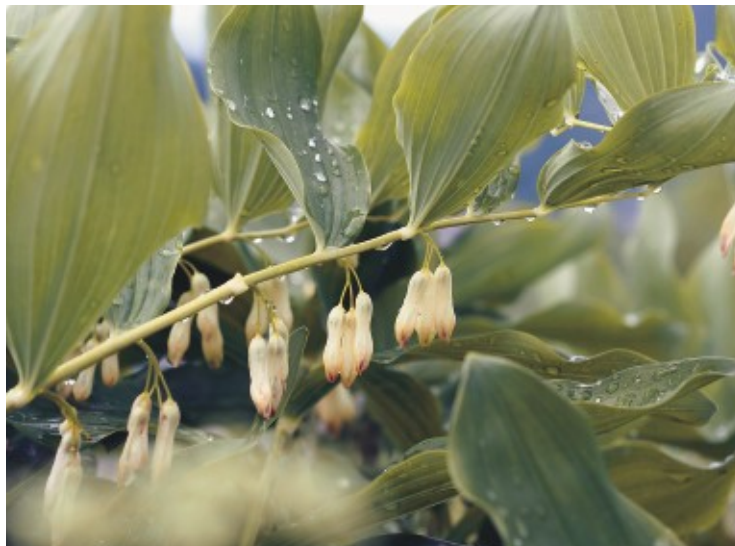
手のひらにサグラダファミリア

行ったほどサッカー好きです。野球好きの家族の影響もあり、阪神タイガースのファンで、甲子園で六甲おろしを歌ってジェット風船を飛ばしています。動いてばかりでなく、消しゴムはんこが趣味でじっと動かず彫り彫りしています。カフェの展示スペースを借りて展示させてもらったり、お店のロゴはんこを作らせてもらったりしていました。季節ごとのモチーフを彫ってはがきにスタンプして飾っています。〇-23に飾ってあるのでぜひ見に来てください。また、患者様への案内も金田先生に消しゴムはんこスタンプを入れてデザインして頂き、とても良くできて患者様にも好評で気に入っています。作って楽しい・押して楽しい

消しゴムはんこ。みなさんもぜひ彫り彫りしてみてください。

出会いは不思議な宝物

家族や友人はかけがえのない存在です。日々協力してくれる家族、大切な友人に感謝しています。開業医勤務で大変お世話になった柳村光寛先生、野村修一先生をはじめたくさんの先生方、研究活動でご指導して頂いている伊藤加代子先生、チームドライマウスの先生方、一緒に働くスタッフの皆様のおかげで今日の私があると実感しています。この場をお借りして御礼申し上げます。今後ともご指導いただきますようどうぞよろしくお願いいたします。



診療支援部だより

診療支援部歯科衛生部門 手嶋 謡子

はじめまして

診療支援部歯科衛生部門の手嶋と申します。わたしは、日本歯科大学新潟短期大学を卒業後、福祉を学ぶため、口腔生命福祉学科へ3年次編入をしました。平成22年に卒業し、新潟大学医歯学総合病院に歯科衛生士として入社して3年目になります。また、社会人大学院生として医歯学総合研究科 口腔生命福祉学専攻博士後期1年に現在、在籍しております。

これまで、1年目の半年間を予防歯科診療室に配属された後、1年間は看護師ローテーションに入り、様々な診療室を回っておりました。この経験は、歯科衛生士とは違った、看護師の方々の考え方や視点など学ぶことができたと感じています。

また、外来移転と同時に病棟2階の摂食・嚥下リハビリテーション室に配属になり早くも半年が過ぎました。リハ室は、これまで回っていた外来と比べて、病棟とのやり取りが主であり、患者様の病状やADL、受付けから診療までの流れ、診療内容など様々な点において異なります。配属された当初は、分からないことも多くあり、先生方にはご迷惑おかけしたことと思います。また、何らかの疾患を有する患者様ばかりであり、歯科

治療や訓練に際しても、全身の疾患を理解しておかなければ、リスクが大きくなることが考えられます。そのため、全身疾患の知識を持ち、全身状態の変化に配慮しながら、診療にあたることの重要性を今まで以上に強く感じています。

現在は、外来での業務に加え、まだまだ数は少ないですが、往診で口腔ケアや食事介助を担当させて頂いています。知識や技術、経験値も浅いですが、リハ室の先生方のご協力とご指導の下、今後も業務に励んで参りたいと思います。

歯科衛生部門の構成

現在、歯科衛生部門には合計22名がいます。ここ数年の間だけで歯科衛生士の純増や退職に伴いメンバーも大きく変わりました。気づけば、私が就職したころに比べると、今の半数にあたる11名が新たに新潟大学病院に勤務されています。

最近では、4月より4ブロックに口腔生命卒業生の稲野辺紫巳さんと、1・2ブロックには古川泉さんが配属され、5月より3ブロックに中井恵美さんが新たにメンバーとして加わりました。移転当初より各ブロックの歯科衛生士の配置数は変わっておりませんが、部門長1名、1・2ブロックに5名、3ブロックに7名、4ブロックに4名、5ブロックに4名、摂食・嚥下リハビリテーショ



ン室に1名の配置になっています。

今後、各ブロックの患者数や業務量を考慮しながら、配置数についても検討していかなければならないところです。

働きかた

現在、周辺業務は、配属されているブロックを中心に担当していますが、以前より配属ブロック以外の周辺業務も行えるようにするため、全ブロックを流動的に周るという意見も出されています。しかし、歯科衛生士室として今後どのようにありたいか、方向性をしっかりと見極めて進めて行かなければならなりません。

そして、周辺業務のスリム化や統一化を図り、歯科衛生士業務の質の向上や効率化に繋がるように、業務マニュアルの見直しも課題として上がっています。

患者様のことを第一に、働きやすさや業務の効率性なども考えながら、室全体で検討しなければならないと考えています。

歯科衛生部門の取り組み

①研修

昨年度より、主に新卒者を対象とした研修が始まりました。ここでは、知識や技術、経験豊富な歯科衛生士の指導の下、メンテナンス業務についての基礎的知識や基本的な手技を学んでいます。

また、今後は、歯科放射線科の勝良剛詞先生と歯周病科の小松康高先生、秋には、インプラント治療部の山田一穂先生による研修を予定しています。

その他に、診療支援部主催の車椅子移乗の実技研修も行われ、理学療法士の方より車椅子から歯科用ユニットへの移乗方法を教えて頂きました。患者様のADLに合わせた移乗動作の注意点や

コツを丁寧に教えて頂くことができ、勉強になりました。

②診療支援部協働推進

病院の組織では、歯科衛生士は、診療支援部に所属しています。診療支援部は医療技術職員で構成され、臨床検査部門・放射線部門・リハビリ部門・臨床工学部門・歯科技工部門・歯科衛生部門の6部門からなっています。

これまで、多職種への相互理解と連携を図ることを目的として、各部門の紹介が、研修会というかたちでなされてきました。今年の9月には、6部門最後となる研修会を歯科衛生部門が務めることになっています。他部門の方々に、歯科衛生士の専門性や役割など少しでも知って頂けるように、皆で協力していきたいと思います。

最後に

平成24年度診療報酬改定では、周術期口腔管理について点数が新設され、歯科衛生士の専門的口腔衛生処置を評価する「周術期専門的口腔衛生処置」も設定されています。

今後、さらに多職種の理解を得ると共に、歯科衛生士の活躍の場を広げられるように取り組んでいけたらと思います。

また、医学教育研究機関に勤務する歯科衛生士として、質の高い医療を提供できるよう、自己研鑽に努めると共に学生教育や研究にも励んで参りたいと思います。

大学病院の中では、まだまだ少人数ではありますが、歯科衛生士としての誇りを持ち、日々の業務に向き合っていきたいと思います。これからも歯科衛生士部門をどうぞ、よろしく願いいたします。